

シベリア・サハでの
マイナス50℃の暮らしと音楽文化

Sakha

SNOWMOHXY

ビョートル・オコネシニコフ撮影

2022. **2.26** sat
13:30-14:30

講演会参加費 | 無料

※ウポイへの入場料が必要です
申込不要・先着順(当日時間までに会場へお越しください。)

〈講師〉北海道科学大学 未来デザイン学部メディアデザイン学科
准教授 荏原 小百合

会 場：民族共生象徴空間(ウポイ)体験学習館
主 催：公益財団法人アイヌ民族文化財団
共 催：北海道科学大学
【定員：30名を予定】

サハの口琴
ホームズ



新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、中止となる場合がございます。中止の場合はウポイ公式ウェブサイトにて告知いたしますので、ご確認の上ご来場くださいますようお願い申し上げます。



ウポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間



北海道科学大学
+Professional



シベリア・サハ共和国の
金属口琴「ホムス」を通して、
サハの自然と暮らしを紹介します。

シベリア・サハ共和国では、冬の気温は摂氏マイナス50度
〜60度を下回る日があります。その一方、夏は40度近く
まで上昇し、年間の気温差は100度に及びます。

そのような厳しい自然と共にあるサハの人々の暮らしはどの
ようなものでしょう。そしてそこで培われてきた音楽文化
とはどのようなものでしょう。



サハの口琴ホムス

今回はとくにホムスと呼ばれるサハの金属口琴(こうきん)
を通して、サハの自然と暮らしを紹介します。
ホムスとは、竖琴(たてこ)もしくは蹄鉄の形をした外枠
の間に、薄い「振動弁」を取り付けた楽器で、弁を直接手
で弾いて音を出します。
とても小さい楽器ですが、口琴が織りなす音色やレパート
リーは多様です。講演では、実際にホムスの音も交えてお
話したいと思っています。



【講師】
北海道科学大学 未来デザイン学部
メディアデザイン学科

准教授 荻原 小百合

専門は文化人類学、音楽人類学です。
ヒトの行為としての音楽実践に着目し、ロシア連邦サハ共和国で製作されて
いる金属口琴ホムスを通じて、サハ
の自然とヒトの関係性について研究し
ています。音楽文化研究では、実践に
織り込まれたモノやヒトの関係性を詳
しく分析します。近年はサハ共和国の
人々が北海道を訪れることがとても多
くなり、北国同士の交流が盛んになっ
てきていますので、更なる文化交流の
輪をひろげてゆきたいです。



サハの民具 展示コーナー

当日別会場で、サハの口琴
"ホムス"や、トナカイの毛皮で
作ったブーツ、馬乳酒杯などの
民具を多数展示します。

■ 場所：民族共生象徴空間(ウポポイ) 体験学習館別館2

■ 時間：2/26(土) 11:00~16:00

2022.2.26 sat

13:30-14:30

【お問合せ】 公益財団法人アイヌ民族文化財団 文化事業課

【会 場】 民族共生象徴空間(ウポポイ) 体験学習館 <https://ainu-upopoy.jp/>

【TEL】 0144-82-3914 (9:00~17:00) mail:submit@ainu-upopoy.jp